

令和7年度 第1四半期 (4月～6月)

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

## 調査概要

- 調査対象  
(1)対象地区：豊橋市内 322 社  
(2)回答企業数：151 社 (46.9%)
- 調査期間  
令和7年4月～6月
- 調査方法  
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳  
製造業 63・建設業 26・卸売業 18  
小売業 16・運輸業 14・サービス業 14

全産業業況 DI 値は前回調査から 2.6 ポイント改善、令和6年度第1四半期からは 3.5 ポイント悪化

## ■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲7.9 (前期比+2.6、前年同期比▲3.5)、来期見通し (7月～9月) については▲7.1 (当期比+0.8) となった。依然マイナス圏ながら前期比+2.6 ポイントとやや持ち直しの傾向が見られた。来期見通しについては、当期比+0.8 ポイントの改善を見込むものの、楽観視できる状況ではない。一部では価格転嫁や新規取引先の開拓による収益改善の声もあったが、多くの業種で、販売単価の上昇に伴う顧客の買い控えや米国関税措置の影響などを不安視する声が挙がった。

設備投資は、「実施した」との回答が 54.1 (前期比+18.5、前年同期比+36.9)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 50.7 (当期比▲3.4) となった。

## ■製造業

業況 DI 値は▲4.8 (前期比▲3.2、前年同期比+6.2)、来期の見通しについては▲8.1 (当期比▲3.3) となった。

自動車関連を中心に受注減が続く中、人件費や原材料価格の高騰が業績を圧迫。食品製造業では、米価などの仕入価格が上昇し、販売価格への転嫁が追いつかないとの声も。加えて、米国関税の強化など外的要因への懸念から、先行きは不透明との見方が多い。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

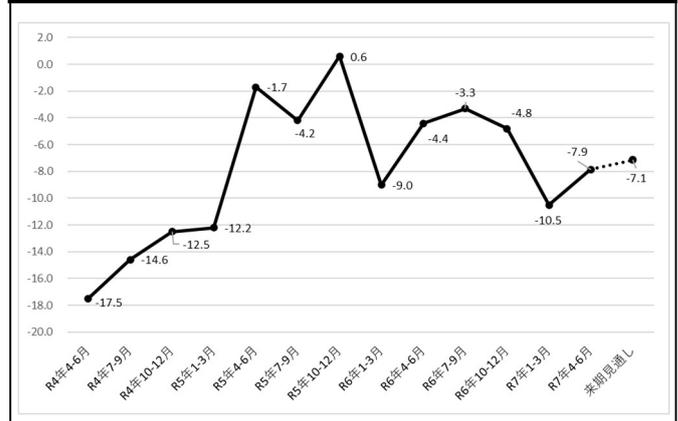
## ■建設業

業況 DI 値は▲8.0 (前期比+19.8、前年同期比▲15.4)、来期の見通しについては▲4.0 (当期比+4.0) となった。

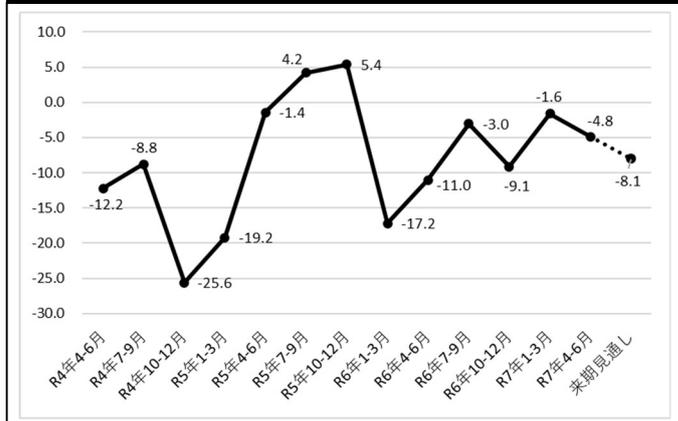
空調・インフラ関連工事を中心に、官公庁・民間ともに堅調な需要が見られた。一方で、慢性的な人手不足や技術者の高齢化により「受注ができない」との声も。来期も一定の案件は見込まれるが、先行きの不透明感を指摘する声が多い。

経営上の問題点としては、「従業員・技術者の確保難」、「原材料価格の高騰」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

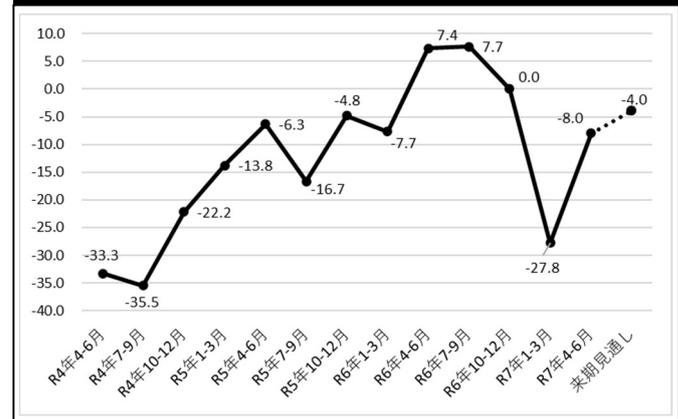
## 全業種 DI 値の推移



## 製造業 DI 値の推移



## 建設業 DI 値の推移



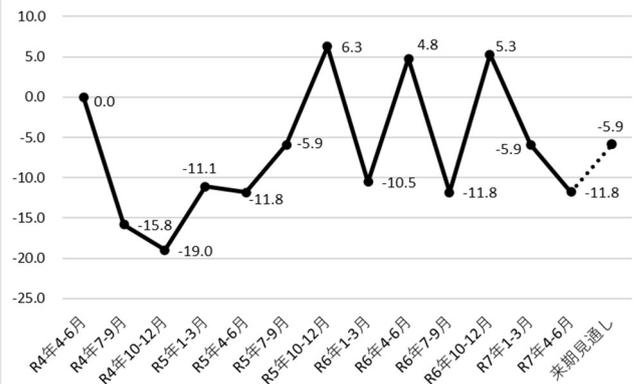
## ■卸売業

業況 DI 値は▲11.8（前期比▲5.9、前年同期比▲16.6）、来期の見通しについては▲5.9（当期比+5.9）となった。

ギフト系業種では新規販路の開拓により業績回復の兆しも見られたが、食品系では米国関税措置による輸入品価格の上昇を懸念する声が相次いだ。全体としては、価格高騰や人件費の増加が業績を圧迫している。

経営上の問題点としては、「従業員・技術者の確保難」、「人件費の増加」、「原材料価格の高騰」「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

### 卸売業 DI 値の推移



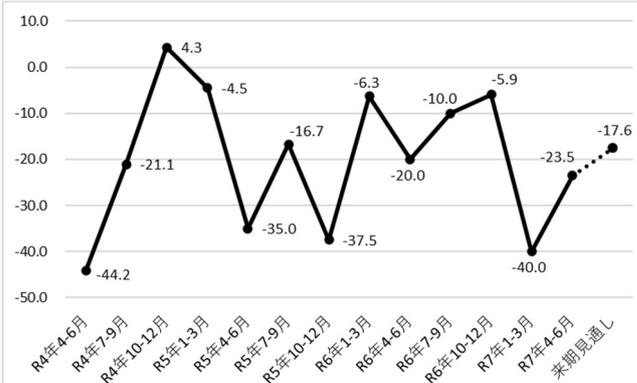
## ■小売業

業況 DI 値は▲23.5（前期比+16.5、前年同期比▲3.5）、来期の見通しについては▲17.6（当期比+5.9）となった。

仕入価格の上昇により、販売価格も上がり消費者の買い控えが見られるとの声が多く。特に自動車販売業では「価格上昇による販売減速」を懸念する意見が挙がった。一方、事務用品など業務用途の分野では設備投資需要の高まりにより売上が堅調に推移する事業所もあった。

経営上の問題点としては、「従業員・技術者の確保難」、「製品ニーズの変化への対応」、「設備・店舗の老朽化」が主に挙げられる。

### 小売業 DI 値の推移



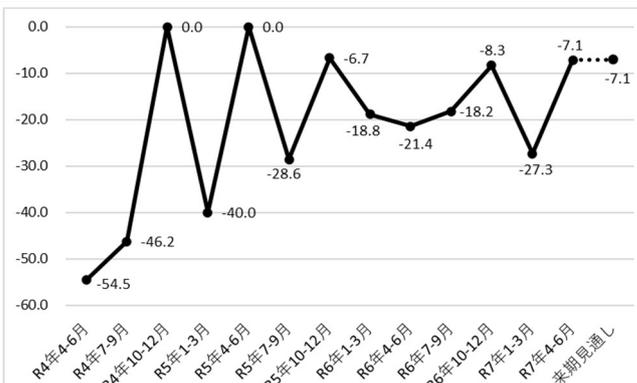
## ■運輸業

業況 DI 値は▲7.1（前期比+20.2、前年同期比+14.3）、来期の見通しについては▲7.1（当期比±0.0）となった。

全体として荷動きの回復は鈍く、「物量が戻らない」「採算が取れない」との声が大勢を占めた。価格改定は一部達成されたものの、人件費や燃料費などの負担が収益を圧迫。一方で若年人材の採用に成功するなど、前向きな動きも見られた。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、「原材料価格の高騰」が主に挙げられる。

### 運輸業 DI 値の推移



## ■サービス業

業況 DI 値は+20.0（前期比▲2.2、前年同期比▲26.2）、来期の見通しについては+20.0（当期比±0.0）となった。

自動車整備業では職人不足と需要増により多忙な状況。飲食・宿泊関連は売上が堅調ながらも、人手不足や原価高で収益性の改善には至らず、コスト高への対応に課題が残る。堅調な業績の一方で、コスト構造の見直しが迫られている状況。

経営上の問題点としては、「原材料価格の高騰」、「従業員・技術者の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

### サービス業 DI 値の推移

